



## 地域医療連携室長から新年のご挨拶



地域医療連携室  
室長 立本 直邦

令和3年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、皆さまにおかれましては、日頃より当院の地域医療連携室業務に多大なるご理解ならびにご協力を賜り改めて心より感謝申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大により世の中が一変し、さらに未だにその終息の見通しが立たない現状ですが、当院もスタッフ丸となって日々立ち向かっております。一日も早い終息を祈るばかりです。本来ならば行って参りました関係施設への挨拶・情報交換訪問も実施出来ずにおり、皆さまにはご不便やご迷惑をお掛けしていることと思っております。ご事情お察しいただき、お許しいただければ幸いです。

このような状況下においても、地域医療連携室の重要性には変わりないと思っております。また、皆さまのご意見、ご要望には、引き続き迅速にお応えして参る所存ですので、引き続き地域医療連携室をよろしくお願いいたします。最後に、皆さまのますますのご健勝を心より祈念いたしております。

## ～10月からの新任医師紹介～



今年は寒波到来の中で新年を迎え広島県北地域の寒さと積雪の洗礼を受けましたが、心折れることなく地域医療に貢献して参ります。よろしくお願い致します。

歯科口腔外科 中瀬 洋司



若輩の身ではありますが、分かりやすく丁寧な診療を心がけ地域医療に貢献して参ります。よろしくお願い致します。

整形外科 岡田 康平



少子化が進み、さらに新型コロナウイルスの影響もあり受診患者さんが減少している状況ですが、これまでと同様に子どもたちの健やかな成長を見守りサポートしていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

小児科 松本 千奈実



## 部署紹介 「緩和ケアセンター」

当院では、2007年（平成19年）度から緩和ケアチームによる定期的な病棟カルテ回診が行われていましたが、2013年（平成25年）4月に緩和ケア内科外来が新設されたのを契機に、入院がん症例への本格的な緩和ケア介入活動が始まり、2014年（平成26年）4月からは在宅がん患者への出張緩和ケアも開始されました。その後、院内外における介入件数が急増したため、2016年（平成28年）度から専従スタッフが増員され、病院本館1階にあった旧理容室が来談者用に改装されて、同年10月に緩和ケアセンターとして公式に発足しました。

広島県内では広島大学病院がん治療センター緩和ケア部門に次いで2番目という、他の大規模がん診療連携拠点病院に先駆ける形で設置された緩和ケアセンターは、県北の誇りともいえる存在です。



専従スタッフは現在5名（医師2名、看護師2名、公認心理師1名）で、薬剤科、リハビリテーション科、放射線治療科とも緊密に連携しながら、入院緩和ケア・外来緩和ケア・在宅緩和ケアの臨床3本柱に注力するとともに、緩和ケア精神の地域啓発という教育的役割も存分に担っています。

がんに関する問い合わせやご相談はどなたからでも、医療ユーザーはもちろんのこと医療関係者からでもすべて受け付けていますので、どうぞお気軽にお電話ください。（写真は、緩和ケアセンターの来談風景です）

緩和ケアセンター長 佐伯 俊成

## ～感染防止対策室から～感染症対策に取り組んでいます！

三次市内では1月上旬に感染者数が増加しましたが、最近は減少傾向にあります。しかしながら未だ予断を許さない状況です。患者多発地域では病院クラスターの発生もあるようですが、当院では院内感染を防ぐために玄関でのトリアージを行い、感染の可能性のある患者さんに対しては陰圧テント内での診察を行っています。

スタッフはマスクの着用・手指衛生の実施・アイシールドの使用など院内感染対策の徹底に取り組んでいます。県北の医療を守り、そして安心・安全な医療を提供するように日々努力をしておりますので、安心して患者さんをご紹介しますようお願いいたします。

感染防止対策室長

### —— 発熱外来を再開しました ——

1月13日（水）から1月22日（金）の間、三次地区医療センターで受けていただいていた発熱外来を、1月25日（月）より当院で再開しております。新型コロナウイルス感染症の感染疑いがある方がおられましたら、地域医療連携室を通してご予約をお願いいたします。

